

「都市部におけるシーカヤック体験活動が参加者の心理状態に及ぼす影響」

0914032 野村 皓 (海洋スポーツ・海洋健康科学研究室)

1. はじめに

海を主なフィールドとするツーリング用のカヤックをシーカヤックと呼び、海洋レクリエーションまたは海洋レジャーの一つとして捉えられている。シーカヤックに関する研究は「九十九島におけるシーカヤックツアーが参加者の心理状態に及ぼす影響について」(西村 2006) 等があるが、東京近郊のような都市部における体験会を対象にした研究は見られない。本研究では、東京近郊の都市部のようなフィールドでのシーカヤック体験会前後での心理状態の変化を調査することを目的としている。

2. 方法

大田区カヌー協会、横浜シーフレンズが主催する体験会(2012年8月から11月まで)の参加者で小学校高学年以上を対象に質問紙調査を行った。調査票には体験会前後の気分の変化を調査するために二次元気分尺度(以下TDMS)と、シーカヤック体験時に得られた感情を調査する独自に作成した質問(10項目)を用いた。

3. 結果・考察

質問紙の回収数は84人で、そのうち有効回答が得られた81名を調査対象とした。

TDMSでは、「活性度」「安定度」「快適度」「覚醒度」の4つの下位尺度すべてにおいて体験会前後での有意な上昇が認められた。参加者の経験別に比較すると、初心者の「安定度」以外は体験会前後で有意に上昇していた。初心者の「安定度」が上昇しなかったことは、都市部でのシーカヤック体験会は初心者において、人によってリラクゼーションの度合いに差が生じている可能性があると考えられる。

シーカヤック体験時に得られた感情に関して、全体での平均値を見ると「楽しさ(4.60±0.66)」「探検・冒険心(4.30±0.87)」「非日常(4.25±0.84)」等が上位であった。参加者は、普段感じることの出来ない感情を得ることが出来たと考えられる。また、「不安」の平均値が低いことから、都市部でのシーカヤック体験会は海のうねりや波等の外洋の影響を受けることがあまりないことや、スタッフによるサポートがあることが関係しているのではないかと考えられる。吉田(2010)の研究においては「楽しさ」「充実感」「自然との一体感」が高くなっており、本研究とは、必ずしも一致しなかった。

4. まとめ

都市部でのシーカヤック体験会の前後における感情の変化を、TDMSを用いて調査したところ「活性度」「安定度」「快適度」「覚醒度」のすべての項目でポジティブな感情に変化していることがわかった。また、都市部でのシーカヤック実施時には「楽しさ」、「探検・冒険心」「非日常」等を高い頻度で体験していた。

主な参考文献

西村千尋(2006)「Saints 九十九島におけるシーカヤックツアーが参加者の心理状態に及ぼす影響について」

『長崎県立大学論集』 第40巻 1号、81-90頁